

CAMPUS 八戸学院

vol.71

八戸学院大学短期大学部
幼児保育学科棟の改修工事

海外事情

オーストラリア

～様々なスポーツとそれらが地域に果たす役割～

八戸学院スポーツ局

令和6年度の事業がスタート!!

八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ開催



お礼の言葉を述べる北條敬院長

令和6年7月26日(金)「第31回八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ」が八戸カントリークラブで開催され、201名が参加しました。また、八戸プラザホテルアーバンホールで行われた懇親会・表彰式にも多くの方が参加し、大いに賑わいました。

今回の参加費を含む収益金は「地域医療の発展のため」として、自走型車いす6台を社会医療法人松平病院に寄付。法官大会長から目録を受け取った北條敬院長は、「大事に活用したい。患者がより快適に過ごせるよう努力する。」と述べられました。



今年も多くの参加者で賑わいました

CONTENTS

- 3 八戸学院親睦チャリティーゴルフコンペ開催
- 4 八戸学院大学短期大学部
幼児保育学科棟の改修工事
- 6 海外事情
オーストラリア
～様々なスポーツとそれらが地域に果たす役割～
- 8 八戸学院スポーツ局
令和6年度の事業がスタート!!
- 10 研究室訪問
これまで、そして、これから
- 12 八戸学院 TOPICS
- 16 ステラが行く
- 17 ステラ・フォーカス
- 18 理事長散策

大学 光星高 第6回ビブリオバトル in八戸学院図書館を開催

令和6年7月19日(金)、今回で6回目の開催となる「ビブリオバトルin八戸学院図書館」に6名(八戸学院大学5名、光星高校1名)が参加し、絵本や小説などから自分が推薦する図書を紹介しました。

一人5分間の紹介に苦戦する場面もありましたが、例年に比べてプレゼンのレベルが高く、観戦者からの質疑応答にも推薦する図書の面白さを語り尽くしたようでした。

そんな第6回ビブリオバトルのチャンプ本は、八戸学院大学健康医療学部看護学科の若松楓佳さん(2年生)が紹介した「ちいさなちいさな王様」に決定しました。



CAMPUS 八戸学院

vol.71



表紙

令和6年7月から改修工事が行われている八戸学院大学短期大学部幼児保育学科棟には、現在外壁や屋上の塗装を行うための足場が組まれています。他にも、旧美術室やトイレの改修など、工事は令和7年2月下旬まで続く予定です。

建学の精神 「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

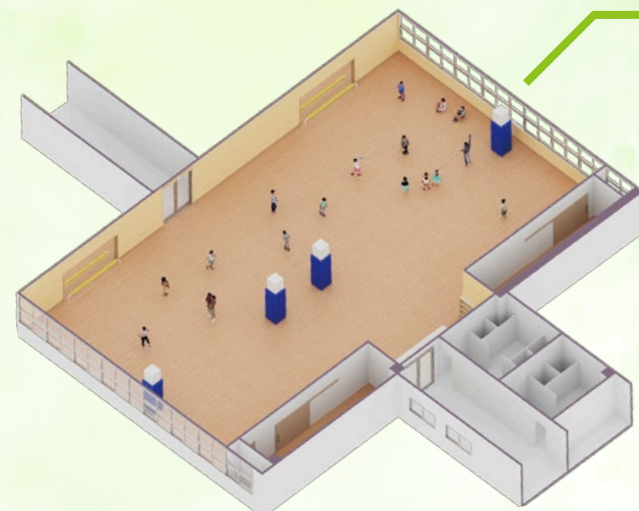
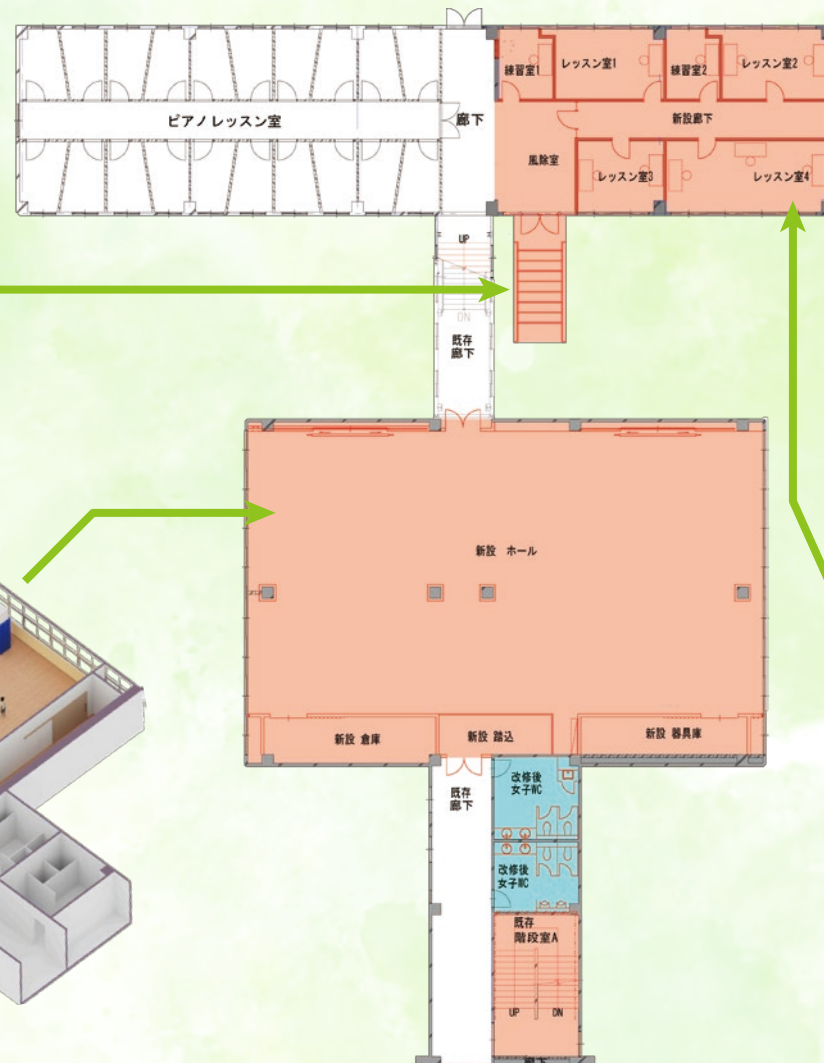
- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二しのめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科棟の改修工事



ピアノレッスン室入口前の階段工事



2階にあった2教室は多目的ホールに！



多目的ホールのイメージ

八戸学院大学短期大学部幼児保育学科は、昭和46年4月に八戸短期大学幼児教育学科として開設されました。これまで50年以上に渡り使用された校舎は、現在改修工事が行われています。

改修工事の概要

- 2階の2教室を多目的ホールに改修
- 旧美術室をピアノレッスン室に改修
- 建物の外壁や屋上の塗装工事
- トイレ改修工事 等

※工事期間：令和6年7月～令和7年2月下旬



2号館屋上の塗装工事の様子



2号館の外壁塗装工事が完了



ピアノレッスン室に改修する旧美術室は、学生ホールからも移動できるよう出入りが設けられる

ラグビー

ラグビーと一口に言っても、オーストラリアでは2種類のラグビーが存在している。一つは15人制の「ラグビーユニオン」、もう一つは13人制の「ラグビーリーグ」と呼ばれるものである。ともにラグビーであるが、ルールなど大きく異なる部分もある。

ラグビーユニオンは、ワールドカップなどで日本でもおなじみのいわゆる「ラグビー」で、オーストラリアのナショナルチームは「ワラビーズ」と呼ばれている。ちなみに隣ニュージーランドのナショナルチームはご存じ「オールブラックス」である。

もう一つのラグビーは、ナショナル・ラグビー・リーグ（NRL）で、「ラグビーリーグ」または単に「リーグ」とよばれ、オーストラリア国内では15人制よりも人気が高い。トライは4点、コンバージョンは2点となり、モール、ラック、ラインアウトなどのプレーは無くスクラムすらも形式的で、攻撃側は前進するため最大6回のタックルを受けることができる。その後はターンオーバーとなりボール保持権が相手チームに渡ることにより、スピーディーなパワープレーが見られるのが特徴である。

現在オーストラリアのプロリーグはニュージーランドの1チームを含め17チームが参加している。さらに「ステイト・オブ・オリジン」と呼ばれるクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州それぞれの出身プロ選手による対抗戦が、年に3度州のプライドをかけて行われる。この試合は、スタジアムの規模にもよるが毎回5万人から10万人近くの観衆が熱狂する大きなイベントとなる。

地域におけるスポーツの役割

これまで紹介したスポーツは広大なオーストラリアの各州によって人気の差はあるものの、各地域のローカルクラブチームの支えによって成り立っている。それぞれ小学生のジュニア世代から、中学・高校、そして一般のチームまで細かく分類され、シーズン中の毎週末各地で試合が開催されている。各クラブでは一般のプレーヤーや上級生が下級生や子供たちのコーチングを行っているのもしばしばみられ、クラブ全体の活性化を積極的に行っている。時に中学校や高校でチームが編成され学校対抗の試合が開催されることもあるが、各競技の主団体はあくまでクラブチームであり、保護者や地元のボランティア、地元企業のサポートが欠かせない。また近年バリアフリーも進み、AFL、クリケット、そしてラグビーに限らず、車いすテニスなどさまざまなプレーヤーに必要な選択肢が増えてきている。

各クラブチームにはクラブハウスが併設され、シャワールームはもちろんフィットネスジムが備えられていることも珍しくない。場所によってはカフェやスポーツバーに至るまで、もともとのクラブハウスの機能を上回る様々な設備が併設されているところもあるほどで、それらはスポーツ好きで社交的なオーストラリアの人々にとって憩いの場として欠かせないものとなっている。特にコロナ禍においてこのような場が人々のメンタルヘルス改善に大きな役割を果たしたのは記憶に新しい。

また近年家庭環境の多様化や青少年を取り巻く社会の変化から、スポーツを通じて青少年育成に貢献している個人や団体も多く存在していることにも注目したい。その中でクイーンズランド州北東部に位置するケアンズには、寄宿舎が併設されているAFLのクラブチームがある。これは州内のリモート地域やパプアニューギニア出身の中高生のための施設で、生徒がAFLをプレーしながら市内の学校に通学できる環境が整っており、スポーツを通して都市圏以外の地域の青少年教育にも力が注がれている。



現地タッチフットボールチームの看板には、クラブ所有のグラウンドやクラブハウスの設備貸し出しについての記載もある。

おわりに

2006年に筆者が渡豪した際、義理の弟に誘われルールもよくわからないままインドアクリケット（通常クリケットの屋内縮小版）の試合に毎週参加していた。この体験はチームメイトとのコミュニケーションの中で現地の英語を習得する貴重な機会となり、オーストラリア生活に溶けこむ大きな助けとなった。

近年ワーキングホリデーや旅行の渡航先として日本人の若者たちに人気のオーストラリアには、上記以外にも日本では知られていないが現地では絶大な人気を誇るスポーツが多く存在する。オーストラリアならではのユニークなスポーツを観戦しチャンスがあれば実際に体験して、オーストラリア文化にじかに触れてみるのはいかがであらうか。

オーストラリア

～様々なスポーツとそれらが地域に果たす役割～

スポーツ大国のオーストラリアは、オリンピックでの水泳をはじめ、ラグビーやオーストラリアオープンでお馴染みのテニスなど、数多くの競技で長年優秀な成績を残している。今回日本ではあまり知られていないが、現地にて国技ともいわれるスポーツのいくつかを紹介し、それらを通じて現地の人々と地域とのつながりや青少年育成についても述べてみたい。

AFL

Australian rules Football League（オーストラリアン・ルールズ・フットボール・リーグ、本来プロリーグのことを指すがこの競技を総じてAFLと呼ぶことが多い）は、ラグビーやサッカーに似ても似つかないオーストラリア発祥のスポーツで、日本では知名度ゼロの競技であるが、現地では国技といえるほど大きな人気がある。19世紀半ばにオーストラリア南部のメルボルンで始まったとされるこのAFLは、クリケット選手の冬のトレーニングが起源とされている。

試合は、長径130～180メートルの「オーバル」と呼ばれる楕円形の芝グラウンドで行われる。ラグビーよりも若干小さな楕円形のボールを使用し「キック」や、「ハンドボール」と呼ばれるAFL独特のパス方法（ゲンコツを作りボールを叩いて味方選手にパス）によってゴールを目指す。フィールドの両端に4本のボールでゴールが設置され、キックによりボールがボールの中央を通過すると「ゴール」となり6点が与えられ、キック以外でのゴール、またはその両脇のボールの間に入れば1点となる。その他主なルールとして、オフサイドは無くボールは360度どこへでもフィードが可能であることなど、フィジカルタフネスが強く求められる。

プロリーグは国内18チームあり、各州や地域にはそれぞれのアマチュアリーグがある。シーズンは南半球の冬3月ごろから始まり、毎年9月最終日曜日にオーストラリア南部ビクトリア州メルボルンのMCG（メルボルン・クリケット・グラウンド、収容人数10万人で南半球最大の競技場、東京ドームの1.3倍の敷地面積）でグランドファイナルが開催されるのが恒例である。ハーフタイムショーでは、世界で有名な歌手やバンドが登場するなど大きな盛り上がりを見せる。



小学生のAFLの試合
審判はボランティアの保護者が引き受ける。

クリケット

クリケットは、イングランド発祥のスポーツでオーストラリアでは伝統的に人気のスポーツである。野球に似ており「投球されたボールを打者が打って走り、得点を重ねる」というのが基本となるが、野球との大きな違いは試合によって投球数を制限するなど「ボールを投げる側が攻撃側」となることであろう。投手はウィケットと呼ばれる打者の後方にある3本のボールを倒すことによって打者をアウトにすることもできるため、打者はそれを倒されないようにするために投球されたボールを打ち返すのである。

イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、インド、パキスタン、西インド諸島、南アフリカなどの英連邦において人気が高く、競技人口はサッカーに次いで世界第2位で3,000万人ともいわれている。次回2028年に開催されるロスアンゼルスオリンピックの種目に128年ぶりに返り咲いたのは、最近ニュースでも伝えられた。

夏のスポーツで、AFL同様に「オーバル」グラウンドが使用され、4年ごとに開催されるワールドカップ、イングランドとの定期戦「アッシーズ」、クリスマスの時期（南半球のクリスマスは夏）に行われる「ボクシングデーテストマッチ」が有名である。一般的に公式テストマッチは試合終了まで5日間ほどかかることもあるため、近年は試合時間が9時間ほどの「ワンデーマッチ」（1イニングを50オーバー（投球数300球）に制限）や、さらに野球とほぼ同じ試合時間のT20（投球数120球のみ）を導入するなどさらなる人気の拡大を図っている。

ちなみに日本での競技人口は4,000人ほどで、栃木県佐野市は「クリケットのまち」ということで日本クリケット協会があり、試合やイベントが開催されている。



ほう がん のり あき
法 官 憲 章

在豪18年
豪航空会社勤務の傍らコラム
執筆やマーケティングのオンライ
ンセミナー講師も務める
学校法人光星学院評議員
八戸学院大学非常勤講師

「女子アスリート健康講座」

開催日：令和6年7月29日(月)／対象：八戸学院大学・短期大学部の強化指定部に所属する女子学生



八戸学院大学健康医療学部看護学科の教員による講演の様子

「月経とスポーツ ～パフォーマンスを最大限発揮するために～」

開催日：令和6年8月27日(火)／対象：八戸学院光星高等学校の運動部に所属する女子生徒



仲良くなった講師と生徒で記念撮影



講師は八戸学院大学別科助産専攻の学生

スポーツ局 局長
三本木 温



スポーツ局は、法人内の大学と高校の運動部の活動を支援するとともに、法人が持つスポーツ施設や指導者を活かした地域貢献活動を行っています。部活動の支援として、「熱中症対策講演会」「女子アスリート支援講座」そして「コンプライアンスセミナー」を開催しています。これらの講習会を通じて、指導者と選手の健康への意識、ハラスメントをはじめとしたコンプライアンスへの意識を高めています。

また地域貢献活動として、主に小学生を対象として体を動かすことの楽しさを体験してもらう「スポーツチャレンジ」と、小・中学生で部活動や愛好会などに所属している生徒を対象にして、より専門的な指導を行う「スポーツクリニック」を開催しています。

学校部活動の地域への移行をはじめとして、スポーツを取り巻く環境が変わりつつあるなかで、スポーツ局はこれからも最新の情報を各運動部に提供するとともに、その活動の成果を地元地域に還元していきます。

八戸学院スポーツ局 令和6年度の事業がスタート!!



令和6年6月20日(木)520講義室にて、大塚製薬株式会社の中島義文様より「知っていれば、自分のためになる」をテーマにご講演いただきました。

八戸学院大学・短期大学部の強化指定部に所属する学生約300名が参加し、パフォーマンスを上げるために必要となる食事(朝食)の重要性や新しい熱中症対策について、お話しいただきました。



真剣に講演を聞く強化指定部の学生たち



講師の中島義文様

研究室 訪問

これまで、そして、これから



八戸学院大学
健康医療学部看護学科
准教授 市川 裕美子

弘前大学大学院保健学研究科
博士前期課程修了／看護学修士
2012年 八戸短期大学
(現：八戸学院大学短期大学部)
看護学科に勤務
2016年 八戸学院大学健康医療学部
看護学科に勤務
2024年 現在に至る
専門分野：成人看護学 看護管理
担当科目：成人看護学概論、
成人看護援助論、
急性期・周手術期看護実習、
慢性期看護実習、緩和ケア論、
リハビリテーション論、
卒業研究など

■これまで

看護師の免許を取得して数十年、「思えばいろいろなことがあったな」としみじみこの原稿を書きながら思っています。私は都内の大学病院で働きながら、付属の専門学校に3年間通い看護師となりました。はじめに配置になった病棟は、がんの放射線治療を行っている病棟でした。そこで4年間勤務した後、急性期にかかわりたいと思い、希望して集中治療室（ICU）勤務になりました。多様な疾患や年齢の患者さんに対応することが必要で、医療機器も多く扱えなければなりませんし、いろいろな処置の介助などもありました。私の看護師人生の中で最も知識や技術を身につけることができたところだと思っています。ICUには同級生もたくさんいて、勉強することもたくさんあって、つらいというよりは楽しい充実した毎日を送っていました。今でもICUで一緒だった仲間とは交流が続いています。

別の大学病院でも勤務した後、縁あってインドネシアの診療所に約2年間勤務しました。東京、インドネシアの勤務を経て故郷に帰り、ここでも今まで経験したことのない診療科・手術室での



成人看護学の演習風景

健康に対する自己管理がしっかりされているので、普段と変わった様子はないか観察したり、声をかけたりして必要時には対応をしていました。その他、看護師に基礎的な看護技術や知識を助言したりすることもありました。

看護師という職業は社会的なニーズが高い職業です。看護師の仕事の場は病院だけではなく、自分で希望する職場を選べるとともに、ライフスタイルに合ったキャリアを積むことが可能です。私は海外で働くという機会を得て、言葉や生活をはじめ、文化や宗教などいろいろなことを経験しました。医療の違いも体験できました。私の人生の中で大変貴重な経験となりました。

■そして、これから

私の大学での専門は、成人看護学です。成人看護学で捉える「成人」の年齢区分は諸説ありますが、一般に15歳以上65歳未満の50年間としています。人生の半分以上を占める成人期の発達課題やおかれている状況、取り巻く課題、疾患の看護などについて、講義・演習・実習などを通して教授しています。

「成人」という言葉は、辞書的には年齢の幼いものが成長すること、あるいは成長したひとそのものを意味し、「おとな（大人）」という言葉とはほぼ同義とされています。成人期にある人は、これまで受け継がれてきた歴史、文化、経済、科学の発展を次世代に橋渡しをする役割もつています。また、生活を支える経済的基盤の獲得、すなわち社会人として生産活動に従事し収入を得るのと同時に、家族の生活を守るため、家族に必要なものを確保する消費活動も盛んに行ったり、様々な形で社会とかかわり暮らす存在であり、社会の担い手、社会と相互する存在です。成人期として捉える50年間の中には、家庭・仕事をめぐる問題、日常生活

勤務や管理職という立場での経験をしました。

その後、ずっと考えていた看護教育に興味があり、現在の大学に勤務することとなりました。大学教員は教育と研究、社会貢献が役割とされており、教育や研究をするうえで必要な看護学修士は勤務しながら、オンラインや対面などで取得しました。

■インドネシアでの経験を少し

勤務地は、北スマトラ島州都メダンから車で約4時間の所にある、日本とインドネシアの合弁会社で働く人のためのクリニックでパリトハンクリニックというところです。インドネシアというと暑いイメージだと思いますが、パリトハンはやや標高が高いこともあって朝晩は涼しく高原のような気候で過ごしやすいです。会社は、近くにある大きなトバ湖の水を利用して水力発電をし、約300 km以上離れたマラッカ海峡側のアルミニウム製錬工場に送電しています。水力発電のためのダム建設時は、日本人医師と看護師もクリニックに常駐しており、日本企業から派遣された多くの日本人の治療や外傷などの処置な

■がんの話と検診を受けよう

私は、がんサバイバーのQOLに関する研究やがん患者の痛みに対する看護実践などが看護についての研究、その他実習に関する研究などを行っています。がんについては、今や日本は2人に1人ががんになるといわれ、国民病ともいわれています。がんは、細胞が変異した1つのがん細胞が、10〜20年かけて1cmの大きさになるといわれています。1cmの大きさになって検診で見つかる大きさとなり、その後は1〜2年で2cmになります。がんの種類にもよりますが直径2cmまでが早期がん、それ以上進むと進行がんになって、そのころになって初めて自覚症状が出現する場合が多いです。したがって、大きくなるまで自覚症状がなく、自覚症状が出現した時には、がんは進行しているということになります。がんを早期に発見するためには、定期的に検診を受けることが大切なことだとわかんと思いますので、早期発見のために積極的に検診を受けましょう。

■タオル帽子作成寄贈

アピアランスケアという言葉を書いたことがありますが。医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアのことを言い、外見を繕うことではなく、心理・社会的なケアを用いて、患者一人ひとりが安心して社会生活を送りながら治療することを目指しています。私は学生と共に、がん患者の化学療法後の脱毛に関してタオルで帽子を作り、一枚一枚丁寧に包装し寄贈する活動を続けています。お届けした病院や患者さんからは、「頭部を保護・保温できて良い」「皆様の活動が病める方々の希望になることを祈っています」などの励ましの言葉をいただいています。また、



タオル帽子を作りました



学生と一緒にタオル帽子作り

参加する学生ががん看護への関心を高めるきっかけにもなっています。今後も可能な限りがん患者さんの苦痛の軽減に微力ながらお役に立ちたいと思っています。タオルの寄付はいつでもお受けしておりますので、よろしくお願いします。



インドネシアで住んでいたドミトリー

どを行っていたそうです。しかし、私が勤務した頃は、日本人医師は工場側において定期的にクリニックに来ていました。クリニックにはインドネシア人医師と看護師3名、薬剤師1名が勤務しており、インドネシア人の治療・処置に関わります。私の仕事は、パリトハン側で勤務している日本人約10名を対象にした、主に健康管理と風邪などの症状があるときは医師に報告し指示を仰いで対応するなどです。実際には、日本人の皆さんは

光星高

男子バスケットボール部が東北大会初優勝！ ～青森県勢60年ぶりの快挙～ [6/23・24]

本校男子バスケットボール部は、岩手県一関市で開催された第79回東北高校バスケットボール選手権大会兼第60回NHK杯大会で初優勝することができました。この大会の男子決勝がNHKで放映されるようになってから、青森県勢として初めての優勝です。たくさんの人に試合を見て応援していただいた中で、結果を残すことができた喜びと、本校に関わる方々のサポートに感謝しています。

選手が日頃の成果を発揮できたことはもちろんですが、これまでの先輩方の努力と、積み重ねてきたものが形になってきていると感じています。今年のチームの目標は全国ベスト8ですが、今回の結果のように1つずつ積み重ねていき、いつか日本一になれるように取り組んでいきたいと思います。



光星高

3年次進路ガイダンスを開催 [7/2]

本校3年次の先生方と進路指導部が企画した「3年次進路ガイダンス」が5・6時間目に開催され、3年次全員(299名)が参加して進路決定のために真剣に学びました。3年次全体の進路ガイダンスは年1回の計画であり、生徒たちは自分の進学したい上級学校や専門分野の講師、担当の方々からの説明を熱心に聞き、理解をしていました。約50のブースでは活発な質問など、主体的・積極的な態度が見られました。



普通科

興味のある分野を5時間目に1つ、6時間目に1つまわり研修をしました。オンラインガイダンスでは、北海道・大阪府・愛知県等の大学の説明を熱心に聞いている姿が印象的でした。

保育福祉科

5・6時間目とも、系列である八戸学院大学短期大学部の先生方や職員の皆さんから、受験の流れや専門的レクチャーを受け、より深い専門知識や系列校進学の情報等を習得することができました。

就職希望者

2時間連続で、長年、八戸市内の企業で人事を担当した方から、履歴書の書き方や面接に関する講義を受けました。本番さながらの面接実践では、どんな点が大切なのかを学ぶことができました。

公務員希望者

八戸市のアレック情報ビジネス学院の先生に、数的処理や空間把握などの特殊問題対策をしていただきました。

進路指導部では、今回のガイダンスの反省点を踏まえ、今後も有益な研修会を計画していきたいと考えています。

光星高

八戸学院光星高等学校関東支部同窓会および新卒者激励会 [6/8]

令和6年度の関東支部同窓会および新卒者激励会が、4年ぶりに東京上野のパセリリゾートで開催されました。

当日は、中村校長、安井同窓会会長、西村東京青森県人会副会長、今井デーリー東北新聞社東京支社長、企業からは足立和興通称総支配人、金井オーショー取締役、その他各企業の方々、友情出席として青森県立八戸工業高等学校・八戸工業大学工大一高等学校・八戸学院野辺地西高等学校の各支部長および多数の同窓生が参加されました。今年から新支部長になった福嶋舞斗(平成24年度工業科卒)氏のフレッシュな挨拶に始まり三浦光一(昭和49年商業科卒)氏の乾杯、アトラクションとして歌手の坂望美(平成21年保育科卒)さんが歌を披露、若林憲生(昭和39年度普通科卒)氏の相撲甚句、ビンゴゲームが行われました。また、これまでいろいろ関東同窓会に尽力された前会長の日影利男(昭和38年商業科卒)氏に花束が贈呈され、「OBは、八戸から離れていてもいつも光星高校を思っています。母校の更なる発展と後輩の輝かしい前途を期待しております。」と述べられました。そして全員で高らかに校歌斉唱し、米内山孝則(昭和39年自動車科卒)氏の三本締めで4時間の楽しい時間を共有することができました。



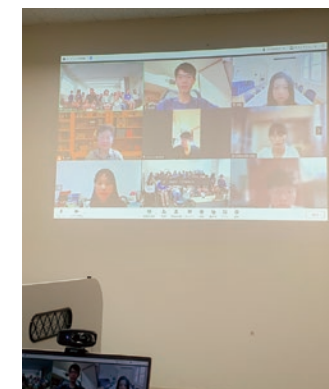
大学

上海建橋学院とのオンライン交流を実施 [7/9]

国際交流と国際学修を目的に、上海建橋学院日本語学部の4年生42名とオンライン交流を行いました。上海建橋学院とのオンライン交流は今回が初めてです。

オンライン交流会には、八戸学院大学の学生と高大連携事業により大学の講義を受講している光星高校の生徒41名が参加し、本学は「日本食と手話」「アニメ」「日本と中国の恋愛観」「日本の観光地」、中国側は「中国の観光地」「日本のアニメ」などについて課題発表と質疑応答が行われました。

主催した八戸学院大学国際交流・留学生支援委員会では、今後もオンライン交流を予定しています。



大学

スケートに挑戦 [8/27～30]



集中講義の「スケート」(選択科目)がテクノアイスパークで行われ、人間健康学科の教育職プログラムを履修している学生47名が受講しました。

スケートに初挑戦の学生もいましたが徐々に氷にもなれ、講義終盤には見事なスケーティングを披露。また、アイスホッケーに挑戦する場面もあり、ゴールを決めると参加学生から大きな歓声があがりました。

短大

ハンドマッサージボランティアを実施 [6/25]

介護福祉学科の柏葉ゼミでは、ハンドマッサージの効果や手技を十分に練習したうえで、高齢者施設でハンドマッサージのボランティアを実施しています。

ハンドマッサージは「癒し」や「脳を活性化する」効果があり、認知症高齢者とのコミュニケーションツールとして注目されています。また、このボランティアは利用者の方々に喜んでいただけるだけではなく、学生自身も癒され、介護ケアについての学びにも繋がっています。

後期も八戸市内の施設から依頼を受けており、ボランティアを継続して実施していく予定です。



前期は、階上町の特別養護老人ホーム見心園で2回実施



野辺地西高校 のへじ祇園まつり



神楽の音が響き渡る



今年は約150名が参加

聖アンナ幼稚園 アロマアート作り



白浜海水浴場で貝殻集め



集めた貝殻でアロマアートに挑戦！



第二しののめ幼稚園
すいか割り(お楽しみ会)



すいか割りに挑戦！

第二しののめ幼稚園
ボディペインティング



絵の具の感触や色彩を楽しむ

八戸学院幼稚園 星の子祭



自由に表現する箱庭遊びも大人気！



様々な催し物を楽しむ園児や保護者

光星高校の生徒も参加しました！



光星高校吹奏楽部の演奏と
チアリーディング部のパフォーマンス

野西高 主権者教育 [6/6]

八戸学院大学地域経営学部地域経営学科長の高須則行先生を講師にお迎えし、全校生徒を対象とした主権者教育講座を開講しました。

「私たちが政治の主人公」をテーマに、民主政治や選挙について講演していただく中で、今年から選挙権を持つ3年生の真剣な眼差しが印象的でした。

これから主権者として社会を担っていく意識を高め、社会の課題を主体的に考えるための貴重な機会となりました。



野西高 スポーツ大会 [7/4・5]

野辺地町立体育館において、2日間に渡りスポーツ大会を開催しました。昨年度に引き続き運動委員会の生徒が中心となり、既存の体育祭に球技種目などを加えた一大イベントとして実施されました。

1日目は綱引きや魔法の絨毯、バレーボール、色別対抗リレー、ダンス発表など、また、2日目には大縄跳びや借り人競争、バスケットボール、ドッジボール、代表リレーなどが行われ、大いに盛り上がりしました。

クラスや学年の枠を超え、互いに親睦を深めるとともに、ダンス発表など日頃の授業の成果を披露する機会として、充実した2日間となりました。



野西高 安全教室 [7/23]

野辺地町警察署交通課の澤田交通課長を講師としてお招きし、安全教室を実施しました。翌日から始まる夏休みに備え、期間中の交通安全や非行防止をテーマにお話いただきました。

講演では、自転車利用について、ヘルメット着用の習慣を身に付けることが非常に重要であることを、実験結果に基づいてわかりやすく解説していただきました。また、スマートフォンの利用については、SNS利用時の心構えやネットリテラシーの大切さについて学ぶことができ、良い形で夏休みを迎えることができました。



八戸学院幼稚園

夏休み～おにぎり教室開催！

夏真っ盛りの8月、青森米本部さん主催の「おにぎり教室」が開かれました。夏休み中の年長さんにも参加を呼びかけ、前半のミス・クリーンライスあおも



りのおねえさんによるクイズと読み聞かせ、そして3人のお米大使のモリモリダンスは、登園していた全園児と一緒に楽しみました。(小さい子の中にはお米大使が「怖い～」と泣いてしまった子も…。確かに間近で見るとちょっと迫力がありました。)

その後はいよいよ年長さんのおにぎり教室。みんなエプロンや三角巾を身につけて、真剣に取り組みました。おねえさんが手本を示してくれましたが、子どもたちが作るおにぎりは一口サイズのまんまるなものから、ラップからはみ出るくらいの堂々としたものまで、実にさまざま。海苔、ごま塩、シャケフレークで思い思いに彩ったおにぎりを頬張る笑顔は、どの子も最高でした。



ステラ・フォークス



八戸学院3幼稚園
マスコットキャラ
ステラが行く
vol.22

八戸学院第二しののめ幼稚園

『地域のなかで学び・成長する子どもたち』
のびのび・すくすく・ぐんぐん

地域のなかで子どもたちが学んでいることを日々感じています。

幼稚園がある新井田字小久保尻は、住宅地で周りに畑などもあり、環境に恵まれています。また、国道45号線からほど近く、周囲には大きな会社もあり、子どもたちは、そんな地域のなかで、多くの方々に見守られながら「のびのび・すくすく・ぐんぐん」と成長しています。

幼稚園の前の道路を挟み、門の前にある広い畑は、地域の方のご厚意で長年お借りしています。ここに、毎年5月にじゃがいも・さつまいも・えだまめなどの苗を植えて、夏から秋にかけて収穫を楽しんでいます。苗植えのときには、スクールバスの運転士さんたちが畑を耕し、畝を作ってくれます。その後も子どもたちの畑のお世話が未熟な部分を補って、維持管理をしてくださっています。

幼稚園の前の道路を少し過ぎたところにある広い空き地は駐車場として、また、幼稚園の看板を建てているところも地域の方の敷地をお借りしています。

ことにいつも感謝しています。

また、昨年から、ご近所の川端重機工業 DENZAI さんから新井田山車組の山車の見学に招いていただいています。八戸三社大祭の時期に会社へ山車が来るときに合わせて、子どもたちは会社を訪問します。写真を撮ったり、山車に乗せていただいたりして楽しみました。帰りにおみやげまで頂戴して子どもたちは大喜びでした。昨年は勤労感謝の日に、お礼も込めて会社訪問させていただきました。温かく迎えていただき、大きなショベルを高く伸ばして見せてくださったり、会社の中も案内していただきました。幼稚園の2階の窓からいつも見える大きなショベルカーを目の当たりにして、子どもたちは感激していました。

地域のなかで、子どもたちが育つことをこれからも意識し、地域の自然や人材など地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるようにしていければ、と考えています。

日頃のご厚意に感謝しています。いつもありがとうございます。

八戸学院聖アンナ幼稚園

年長さんみんなでお買い物

「おいしいオレンジを選んでくるからね～」と元気に幼稚園を出発したのは、年長児13名。交通安全に気を付けながら、近所にある八百屋さんまで歩いてお買い物です。

今年度初めてのお料理活動は、“オレンジ搾り”です。使用するオレンジを、年長児がどれにしようか品定めしながらカゴに入れます。普段は家族と一緒にのお買い物ですが、今日は「自分が選ばなくちゃ！」と張り切っていました。会計を済ませ、オレンジを2つずつ買い物袋に入れた後、お店の方に「ありがとうございました！」と、大きな声でお礼を伝えることができました。

次の日は全員で“オレンジ搾り”を体験しました。「年長さんが選んで買ってきてくれたオレンジだね」という小さなお友



だちの声に、嬉し恥ずかしではありましたが、なんだか得意げな様子の年長児たち。搾りたてのフレッシュオレンジジュースは特別な味がしました。

八戸学院第二しののめ幼稚園

ブルーベリー狩り

卒園児の保護者からの紹介で恒例行事となったブルーベリー狩り！卒園児の保護者に先導していただき、今年も根岸観光農園さんに無事到着！



大きい物は500円玉サイズくらいあると教えていただき、子どもたちは探すのに真剣！甘いものや酸っぱいものの見分け方も教えていただき、おいしく食べることができました。

広い農園を自由に散歩

しながら甘い実のなる木を見つけては「ここ、甘いよー！きてー！」と教え合う声が響き渡っていました。

「来年もおいしいブルーベリーを作るからまた来てね！」と声をかけていただき、来年を楽しみにする子どもたちの顔はニッコニコの笑顔でした。

根岸観光農園の皆さん、今年もおいしいブルーベリーでした。ありがとうございました。





法 官 新 一
Shinichi Hogan

過渡期の時代

一、年度初め

年が変わるたびに、今年こそと思うのですが、学校を取り巻く環境は、相も変わらず厳しさの中にあります。こう申しますと教職員の皆さんから危機感が募る話ばかりと批判を買ってしまいますが、避けて通れない現実であります。またその要因は全て少子化に行きつくわけですが、こうした中で本学院においては例年と変わらない学生・生徒・園児の確保ができて教育活動が展開されていることは、教職員の皆さんのご尽力に他ならないと思っております。また、各学校における教育の成果は、教職員の皆さんの献身的なご指導の賜物と感謝しております。

今年の新年会で、今年は過渡期であり変革の年になると申しました。これまでも時代の変化に対応するために、法人ぐるみで検討し組織的に実践してきましたが、改めて大学・短大の改組や再編をはじめ高校・幼稚園についてもまた、経営面における財務や人事上のことも含めて行動を起こさなければならぬ年と考え、今年を変革の年と位置づけたわけですね。具体的な実践事項については、「中長期計画」に基づきますが、総合戦略室において作成し、議論を経て実行に移してまいりたいと思っております。

二、自治体

私大協発の「教育学術新聞」で、興味ある記事を発見しました。「地方大学の閉学」回避策は」という見出しでした。記事の内容は2月27日に開催された中央教育審議会大学分科会の「高等教育の在り方に関する特



別部会」のものです。二つの焦点として「社会人・留学生の受け入れ」と「都市部と地域」についてです。その中では、「人口減少のなか、とくに過疎化の進む地方の大学の課題は「社会人や留学生の受け入れ」の態勢も整っておらず、自治体や地元産業界を巻き込んだ地域全体での取り組みが急務」と述べてあります。

また、ある地方のリーダーからの「地方小規模大学からの提言」が紹介されています。「定員割れがマジヨリティ（過半数）になり、大学が消える危機感がある。地方に大学が必要だという地域ぐるみの共通認識が必要です」という主張には、同感です。

地方の高等教育機関の現状を踏まえて、地方自治体が共通認識に立って共に行動に移していくことを要望したい。地方の高等教育機関にとって施策を練る条件として、「大学が国・地方社会の重要なインフラ」であるという視点で「定員割れでも大学を維持していこうと頑張っているところ」を尊重し、

三、八戸学院むつ下北キャンパス
八戸学院むつ下北キャンパスの開設については、すでに文部科学省へ開設準備に関する届け出も済み、いよいよ学生募集が始まりました。



四、八戸学院野辺地西高等学校

昨年、令和5年6月12日の保護者会で、八戸学院野辺地西高校（以降、野辺地西高校）を八戸学院光星高校に統合する案をご説明したところ反対意見が噴出し、このことを察知したマスコミが大々的に報道しました。社会的にも大きな反響を招いたことで、統合策は白紙撤回することになりました。

これを機会に「野辺地西高校を考える会」が立ち上がり、以後保護者と直接対話する機会を得ることになりました。二回目の会では、統合策に対して施策の発表までのプロセス、保護者の意見集約がない、野西が好きで選んだ学校だ、生徒が年度途中で光星高校と一緒にいる説明がない等多くの指摘がありました。こうした意見に接し、新たな方向を模索することで保護者のご理解を得ることができました。

この保護者会は、さらに野辺地西高校の運営・経営状況について、また法人全般の運営から施策の計画実施ならびに今後の将来計画作成中のことについても、お話しする機会になりました。そして、野辺地西高校を取り巻く経営環境の厳しさについて、具体的には、生徒数の減少、教員の不足という教育運営上の課題、校舎の老朽化はじめ管理運営上の問題解決が存続の大きな課題になっていることを共有できました。

こうした中、昨年のマスコミ報道によって野辺地西高校の現状が広く周知されることにより、本学に関心を持っていたいた五戸町からお声がけいただきました。特に、野辺地西高校のサッカー部について、五戸町からは魅力的価値があるという評価をいただきました。ただ野辺地町で育てていた学校が移転することについては、我々当事者はもちろん関係者同心底心を痛めました。五戸町との協議・現地視察を経て野辺地西高校が五戸町の旧県立五戸高校の校舎を使用して存続する可能性を見いだしました。その後五戸町から正式に誘致要望書が出され、8月末までに回答をすることにしました。

まず野辺地町に対してご説明をし、野辺地町の卒業生や地域有志の皆様、野辺地西高校の外郭団体、保護者会での説明を経て、8月27日の臨時理事会に諮り、誘致要望を受け入れること

社会的な共通認識を深めていくことが大事だと主張する声に、地方の行政も耳を傾けるべきと思うのです。
国全体の競争力維持の観点からは、機能やビジョンごとに大学を分けて支援や評価することとしています。そして、「大学の統合や適正規模への転換」と題して、運営困難な大学を引き受ける法人は、受け入れのリスクが大きく容易ではない。むしろ一定期間、定員割れでも補助金が継続されることなどの要望も重視してほしいものです。
「自治体との関係」としては、自治体は関わる公立大学のみならず、国立、公立、私立を問わず地域の大学であることを、自治体が「自分事」として考えることとし、交付金算定の対象とする予算配分のスキームが国公私立を問わず必要とした意見は有難い。
その3ヵ月後の2024年7月24日の学術新聞は、中央教育審議会の大学分科会と「高等教育の在り方に関する特別部会」の合同会議が開催され、急速な少子化を見据えた大学の統廃合や定員減を進め、適正規模にしていこうとする特別部会の「中間まとめ」が大筋で了承されたとの続報でした。さらに中教審は年度内答申を目指しているが、この日示された案には新たに「最近急増する」私立大学の公立化については、安易な設置は避ける必要がある」との二項を盛り込んでいて、地方の私学の施策の一端が浮き彫りになっています。「地方公共団体と大学との関係の在り方」について、この秋以降どのような議論がなされるか注目しているところですね。

にしました。つきましては、今後2年間を移転の準備期間とし、現在の野辺地西高校在校生が全て卒業する令和9年3月を境に、令和9年4月から旧五戸高校の校舎を使用して高校生活が継続されることになりました。

昭和48年に開校した光星学院野辺地工業高等学校は、半世紀以上の歴史の中で八戸学院野辺地西高等学校に校名変えながら、野辺地町の皆さんに大事に育てていただけてまいりました。この間、9546人をを超える卒業生を送り出しています。この卒業生をはじめ、関係者には寂しい思いをさせてしまっていますが、新天地、五戸に行っても光星学院野辺地工業高校と八戸学院野辺地西高校の伝統と魂は受け継がれていきます。

これまでの野辺地町のご協力に感謝を申し上げますとともに、これからの五戸町での活動にもご声援いただきますようお願い申し上げます。

昨年度、むつ市の山本市長から本学教職員を介して面談の要望があり、その折にむつ市および下北地域における医療の現状を伺うことになりました。特に看護師や保健師不足は地域の未来にとって大きな課題であることを主張され、本学の看護学科の誘致の話に及びました。本学としては山本市長のこのご要望にどう応えるべきか、時間の猶予をいただいて大学を中心に検討を重ねてきました。カリキュラム編成、あるいは学生生活の確保、施設整備等の課題解決に向けてむつ市の担当者にも加わってもらい検討した結果、本学としてむつ市のご要望を受け入れることにいたしました。

以後、スピード感のある準備で校舎の



デリー東北新聞社提供
2024年(令和6年)8月30日掲載



HACHINOHE GAKUIN CAMPUS SPOT

美保野キャンパス 八戸学院大学 学友会館



平成13年4月に完成した学友会館



学友会館は、当時の学生からの要望で平成13年4月に完成し、学友会メンバーの活動拠点として、様々なイベントが企画・運営されてきました。

今年度も多くの学生が執行部に加わり、学生大会を皮切りとして、バーベキュー交流会やeスポーツ大会を開催。現在は、10月19日(土)・20日(日)に開催する「はちがくフェス(学園祭)」に向けて、準備が進められています。

美保野キャンパス

